

平成26年第4回下仁田町議会定例会会議録第1号（5日）

招集年月日	平成26年12月5日					
招集の場所	下 仁 田 町 議 会 議 場					
開閉会日時 及び宣言	開 会	平成26年12月 5日午前10時00分			議 長	佐藤公夫
	閉 会	平成26年12月12日午後0時05分			議 長	佐藤公夫
応（不応）招議員 及び出席並びに 欠席議員 出席 12名 欠席 名 欠員 名 凡 例 ○ 出席を示す △ 欠席を示す × 不応招示す	議席番号	氏 名	出席等の別	議席番号	氏 名	出席等の別
	1	永井正之	○	7	佐藤勇二	○
	2	木暮弘元	○	8	千野榮治	○
	3	矢嶋榮一	○	9	島崎紘一	○
	4	原 秀 男	○	10	堀口博志	○
	5	岩崎正春	○	11	岡田武二	○
	6	高瀬政信	○	12	佐藤公夫	○
会議録署名議員	3番	矢嶋 榮 一	4番	原 秀 男		
職務のため議場に出席したものの氏名	事務局 長	齊藤昇久		書記	並木文子	
地方自治法 第121条に より説明のた め出席した者 の氏名	町 長	金井康行		ガス水道課長	金井義富	
	教 育 長	吉井 誠		水道課長	(ガス水道課長兼務)	
	総務課長	竹内芳則		教育課長	浅川幸則	
	企画財政課長	永井邦佳				
	健康課長	神戸 哲				
	産業振興課長	神戸康全				
	ジオパーク推進室長	神戸 宏				
	会 計 課 長	堀口玲子				

議 事 日 程 別紙のとおり

会 議 に 付 し た 議 件

- 1 会議録署名議員の指名
- 2 会期の決定
- 3 一般質問

会 議 の 経 過

開 会 平成26年12月5日 午前10時00分

○議長 佐藤公夫 おはようございます。

ただいまから、平成26年第4回下仁田町議会定例会を開会し、直ちに本日の会議を開きます。

○議長 佐藤公夫 日程第1、会議録署名議員の指名を行います。

会議録署名議員は、会議規則第118条の規定によって、3番 矢嶋榮一君と、4番 原秀男君を指名いたします。

○議長 佐藤公夫 続いて、日程第2、会期の決定を議題といたします。

本定例会の会期については、さきの議会運営委員会で本議会の運営等について協議がされておりますので、その結果について報告を求めます。

議会運営委員長

(佐藤勇二議会運営委員長 登壇)

○議会運営委員長 佐藤勇二 おはようございます。

議長のご指名がありましたので、議会運営委員長報告を申し上げます。

去る11月26日午前10時から議会事務局において、議会運営委員会を開催し、本定例会の会期、日程及び議案の取り扱い等の議会運営に関する事項について協議をいたしましたので、その経過と結果についてご報告を申し上げます。

まず、会期につきましては、本日から12月12日までの8日間とし、審議日程につきましては、お手元に配付されている日程表のとおりであります。

本日は、会期の決定の後、町長のご挨拶をいただきます。その後、一般質

問を原秀男議員が行います。

また、一般質問終了後、全員協議会を開催し、今定例会に提案されております第81号議案から第92号議案の細部にわたる説明をしていただきます。

6日及び7日は、休日につき休会とします。

8日は、午前10時から本会議を開き、報告第9号の後、第81号議案から第89号議案までの提案者の説明、質疑、討論、採決を行います。

次に、第90号議案から第92号議案について提案者の説明、質疑の後、予算決算特別委員会に付託し、審査をお願いすることに決しました。

9日は、予算決算特別委員会を開催していただき、10日及び11日は、委員会の予備日といたします。

12日最終日は、本会議を開き、予算決算特別委員長から付託議案の報告を受けた後、第90号議案から第92号議案に対する討論、採決を行い、全日程を終了する予定でございます。

この会期、日程等にご賛同を賜り、円滑な議会運営ができますよう議員各位のご協力をお願い申し上げまして、委員長報告といたします。よろしくお願い申し上げます。

○議長 佐藤公夫 お諮りいたします。

本定例会の会期は、議会運営委員長報告のとおり、お手元に配付の日程表により、本日から12月12日までの8日間にしたいと思います。これにご異議ございませんか。

(「異議なし」の声あり)

○議長 佐藤公夫 異議なしと認めます。

したがって、本定例会の会期は、本日から12月12日までの8日間と決定いたしました。

○議長 佐藤公夫 続いて、町長から定例会招集の挨拶を願います。町長
(金井康行町長 登壇)

○町長 金井康行 おはようございます。

寒さがひとしお身にしみるところとなりました。

議員の皆様には、大変お忙しい中ご参集を賜り、ありがとうございます。

平成26年第4回下仁田町議会定例会開会に当たり、ご指名を賜りましたので、一言ご挨拶を申し上げます。

7月より始まりました庁舎耐震改修も、第1期工事として行われた2階、3階の改修が完了し、先日引っ越しが行われました。1階部分や外構につい

では、今後年度末に向け順次改修されていく予定でございますので、皆様方にはいましてご不便をおかけすると思っておりますが、ご協力のほどよろしくお願いいたします。

さて、改修されました議場で初めて行います本定例会は、条例改正等案のほか、一般会計等各会計の補正予算を含む12件を第81号議案から第92号議案までとし、それぞれご提案申し上げます。

いずれの案件につきましても、後ほど担当課長から詳細を説明させていただきますので、よろしくご審議の上、ご議決、ご承認賜われますようお願い申し上げます。

また、これから年末年始に向けてさまざまな諸行事がございますが、皆様方のご協力をお願いいたします。

以上、平成26年第4回議会定例会開会に当たりましてのご挨拶とさせていただきます。よろしくお願いいたします。

○議長 佐藤公夫 次に、日程第3、一般質問を行います。

通告書に従いまして質問を許します。原秀男君
(原秀男議員 一般質問席へ)

○4番 原秀男 議長の許可が得られましたので、4番、原秀男が質問させていただきます。

その前に、先ほどこれも議長の許可をいただきまして、きょうの一般質問に関する資料を各皆様の席にお配りしてあります。2部です。1部はコピーなんですけれども、ごらんになりながらお聞きいただきたいと思います。

それでは、始めさせていただきます。

先日の全国ねぎサミットにおかれましては、執行側並びに関係諸団体の長期にわたる周到な準備により、大変な数の来場者を記録したということで、すばらしい結果が出ました。ここに改めてその労をねぎらいたと思います。また、今後の農業関係の発展の礎としていただきたいと思います。

さて、下仁田町のもう一本の柱であります林業についてですが、皆様ご承知のように、この数十年の木材自由化の波や近年の建築様式の多様化、変化により、深刻な状況となっております。山々は崩壊し、治山治水対策が異常気象による自然災害の猛威に翻弄されております。今後下仁田町の林業再生に抜本的な対策があるのかないのか。ご提案の中でお尋ねしていきたいと思っております。

まずは、下仁田町の森林資源の状況並びにその活用のされ方についてお聞

きしたいと思います。まず最初に、現在、下仁田町の杉の立木蓄積量はどのくらいあるのかお聞きいたします。

○議長 佐藤公夫 産業振興課長

○産業振興課長 神戸康全 お答えをさせていただきます。

下仁田町全体でおよそ328万立方米です。

以上です。

○議長 佐藤公夫 原秀男君

○4番 原秀男 328万立方米といっても見当がつかない数字なんですけれども、町の量から聞いてもわからないので、下仁田町が県内で大体どのぐらいのその蓄積量があるのか、県内1番から5番ぐらいまでの量がわかれば教えていただきたいと思います。

○議長 佐藤公夫 暫時休憩いたします。

休 憩 午前10時00分

再 開 午前10時11分

○議長 佐藤公夫 休憩を解いて再開いたします。産業振興課長

○産業振興課長 神戸康全 先ほど申しましたように、下仁田町の蓄積量は328万立方米で、群馬県全体では9,300万立方米でございます。

○議長 佐藤公夫 原秀男君

○4番 原秀男 それで、下仁田町は大体どのぐらいの順位的にはあるんでしょうか、杉は。また、順位がわかれば教えていただきたいです。

○議長 佐藤公夫 産業振興課長

○産業振興課長 神戸康全 県内の杉の蓄積量で1位は高崎市、2位が下仁田町になっております。

○議長 佐藤公夫 原秀男君

○4番 原秀男 1番の高崎市はどのぐらいの量でしょうか。

○議長 佐藤公夫 産業振興課長

○産業振興課長 神戸康全 お答えします。

336万立方米でございます。

○議長 佐藤公夫 原秀男君

○4番 原秀男 高崎市が336万立方米、下仁田町が328万立方米。高崎市は合併をして倉渕あるいは榛名、全部が入った数量だと思うんですね。ですから単独でいくと、この下仁田町の328万立方米というのは突出した数量だと思います。その意味では、県内でも本当にすごい量の杉の蓄積量があると言えると思います。

そこで、それだけの量の立木がありまして、現在、町内の丸太の消費量と
いますか、伐採量というのはどのぐらいになっているのでしょうか。

○議長 佐藤公夫 産業振興課長

○産業振興課長 神戸康全 森林組合の年間の取扱量でございますけれども、1万
3,700立方メートルだそうです。

○議長 佐藤公夫 原秀男君

○4番 原秀男 328万立方メートルあって1万3,700立方メートルということになりま
すと、全く何年かかるのか、全部切って交代になるのか、何年かかるか。
300年かかりますね。そういうような場合で、全くもってこの方向性が出
せない、なおかつこれが今一万数千立方メートルということですが、価格の大変な
低迷で、恐らくこれが立米単価、概算でいくと、総額で一億何がしぐらいな
のかなという感じがしまして、現在、下仁田森林組合員の数というのは、恐
らく私の記憶では千四百何十軒、町内で。2軒に1軒は下仁田町森林組合員
であるんですけれども、これだけの関係者がいて、しかも扱っている総量が
それしかない、金額もそれしかないということは、全く山へお金が
返らない、もう崩壊の至りだと思えるんですけれども、町長今そういう現状な
んですけれども、そういう現状を今どのような感じをお持ちでしょうか。

○議長 佐藤公夫 町長

○町長 金井康行 原秀男議員の質問でございますが、今数字を申し上げましたと
おり、これは昭和20年代に入るところから林業施策として、人口が下仁田町
で2万2,000余おりましたときに、大多数の農家、あるいは林業家が国
の施策に基づいて熱心に杉やヒノキの植栽をしたという、これはすごく労力
を要した、また、汗水流して蓄えてきた町としては大切な宝物だと、こうい
うふうに理解する中で、328万立方メートルの材積があるという事実でございま
す。

下仁田町は原秀男議員ご承知のとおり、以前は林業の町として、そして栄
えて、その後養蚕等々も広まってきた、そうした町の大きな産業の役割を果
たしてきた、そういう思いで、現在もそれに携わる思いは、この価格の低迷
によって非常に残念に思っている次第でございます。しかしこれは全国的な
お話でございますので、そういった林業の生かし方を国を挙げてやはり国策
として、それぞれ疲弊している農村漁村の力添えになるべく、そんな林業政
策を大いに期待している現状であると思っております。

○議長 佐藤公夫 原秀男君

○4番 原秀男 わかりました。

ここできょうの本題なんですけれども、ご提案なんです、今資料をお配りしました。町長には前もってお渡ししてあるんですが、最近新しい木造建築工法、CLT工法というんですが、それが現在日本に入ってきております。CLTというどうもこれは、ここに書いてあるように、直交集成材というこの画期的な集成方法なんですけれども、クロス・ラミネーテッド・ティンバーという呼び名なんですけれども、これを略しましてCLTと国でも呼んでおります。これは、今までの集成板を今までは繊維方向に平行に重ね合わせただけのものでずっと扱ってきたわけなんですけれども、これを繊維方向に直角に直交させて張ると。これによって非常に強度が出ていると、こういうものであります。これは、20年前ぐらいからヨーロッパで開発されてきて、これはヨーロッパ、北米、もちろんオーストラリアも含めて、建築材料として使われております。本当に、コンクリートにかわるような強度、それとなおかつ強度がありますから、中高層建築、10階建てのマンションなどにも大分使われております。日本へ入ってきたのはこの二、三年ぐらいらしいですけれども、大分これが有望だということで、国でも、林野庁、また国土交通省でもこれを大分注目しております。さらには、このCLTの建築物の利用については国会でも取り上げられておりまして、ことし安倍総理が建築基準の見直しなどを進めて、このCLT、直交集成材の活用・普及に努めていきたいと、このように述べています。

ともかく、大量の杉の消費というか、コンクリートのかわりに使われるわけですから、全く方向が変わってくると、いい方向を向くんじゃないかなと、そういった意味で私もこれをご提案したいと思ひまして、こういうものを検討し、こういう工場の誘致、あるいは建設をすることにより、森林組合の活性化、そしてまた雇用の創出につながっていくのではないのかなと感じたわけで、これをご提案させていただきました。町長、この工法なんですけれども、どのようにお感じになりましたか。

○議長 佐藤公夫 町長

○町長 金井康行 このCLT事業につきましては、今原秀男議員がおっしゃられるように、ここ数年で非常に希望の持てそうな事業として注目をされておる、そんな直交集成材でございます。今までは、同じ集成材でありまして、やはり杉やヒノキを除くカラマツを中心とした集成材ということで、国内でも大分建築の中にも取り入れられてきましたが、この工法によりまして、非常に強いコンクリートにもまさると言われるような画期的な工法でございまして、やはりこれは火災にも強いということで、非常に今国を挙げて政策の中

に取り入れようということのようでございます。群馬県でもそういった先進地等々のお話を聞く中で、やはり先ほど言いましたように、下仁田町1町村でありながら328万立方メートルもあるというこの杉やヒノキを活用して、今までもいろいろと国が検討されてきました木質バイオマスの事業とともに広く注目を浴びるとともに、何とかこの地域でもそれらを取り入れられるような方法を考えていこうというお話をいただいております。それはやはり、いかんせん下仁田町でそういった材積があるとしても、これらは到底1町村でできることではございませんので、やはり広い西毛流域を中心とした連携が必要で、また、研究も必要であろうというふうに考えられる現在でございます。

○議長 佐藤公夫 原秀男君

○4番 原秀男 わかりました。

ぜひ本当にこの下仁田の資源、下仁田、下仁田と、今町長、お話で言われた、もっと広い範囲、専門的という言葉が出ていましたけれども、事業的には大きな方向になるのかなとは感じますが、何せこの下仁田の大きな資源、本当にこれが町おこしにつなげていただけたら幸いと思います。ぜひともよろしくお願ひしたいと思います。

時間は大分余ってしまいましたけれども、私の目的は終わりましたので、これにて終了させていただきます。ありがとうございました。

○議長 佐藤公夫 以上で一般質問を終結いたします。

○議長 佐藤公夫 本日の日程は全部終了いたしました。

本日はこれにて散会いたします。

散 会 平成26年12月5日 午前10時27分